

図書館友の会 ニュース

発行 岸和田市図書館友の会

《発行責任者 松谷 敬一》

2021年
1月号

No. 18

明けましておめでとうございます 岸和田市図書館友の会 会長 松谷 敬一

かのとうし

令和3年の干支丑年（辛 丑）を迎えました。新年明けましておめでとうございます。

昨年は全世界が新型コロナウイルスに振り回された一年となりました。その発端は中国武漢から感染が始まったことで、前年に続いて益々、米中対立が激化しました。加えて、バイデン米国大統領と菅総理大臣が誕生するという大きな政治変化が起きました。日本では、コロナ感染第三波対策として、年末年始は自宅での自粛生活を余儀なくされている現状にあります。



さて冒頭に記しました今年の辛丑（かのとうし）ですが、【痛みを伴う衰退と新たな息吹が互いに増強し合う年】とあります。我々の活動動機である『ルネサンス』の気運と符合します。

痛みを伴う幕引きと大きな命の芽吹き＝そのカギとなるのは大自然の摂理から未来を図る希望です。虐げられた昨年に負けず、前を向いて進む図書館友の会にしてゆきましょう。

※「友の会」発行の『図書館から岸和田ルネサンス』は、第10号まで発行しました。4頁に各号のテーマを掲載していますので、興味のあるテーマからでもお読みください。



楽しかった文学歴史散歩

にゅうつひめ

高野山と丹生都比売神社へ行きました

二面三面に参加者の感想を掲載しています。

2020年「文学歴史散歩」 参加者の感想

◇歴史の重みを改めて感じました

11月13日、図書館友の会「文学歴史散歩」は、高野山の金剛峰寺・奥の院、及び丹生都比売神社を訪れました。曇り空でしたが、時折太陽も顔を出し、穏やかな秋の一日、色鮮やかな紅葉を楽しみながら、静寂な聖域を歴史を感じながら散策しました。食事も美味しく楽しい1日でした。

奥の院では、NHK大型ドラマ「麒麟が来る」の主人公、「明智光秀」のお墓や、知名度の高い戦国大名のお墓も随所にあり、ガイド役を務めて下さった杉原さんの適切な説明のお陰で、歴史上の人物を身近に感じながら、さらに知識を深めることが出来ました。

金剛峯寺では弘法大師空海より開創されて1200年の吉辰を迎え、歴史ある各部屋、障屏画と共に、千住博画伯の奉納された障屏画を見ることが出来感激でした。

丹生都比売神社の歴史、その佇まいに先人たちの意気込みが感じられ、この度の歴史散歩で人々が歩んできた歴史の重みを改めて感じました。

コロナ禍の中、今回の歴史散歩に並々ならぬ気を使って下さり、色々努力して下さいました。図書館の方、友の会の役員の方々に心から感謝いたします。 (皆見 真佐子)

◇ 私が考えていたことも、いろいろ確認できました。

金剛峰寺で「豊臣秀次の自刃の間」を見て、NHK大河ドラマ『真田丸』での秀次の無念切腹の一コマと二重写しになりました。また、別の団体の観光ボランティアガイドさんが、「空海が遣唐使船で入唐する際の費用は水銀でした。」などと説明するのを傍で聞きながら、「私が考えていたことと同じだ」と思わず相槌を打ちました。

奥の院では、中ノ橋を渡ったすぐ右側に岡部家の五輪塔を見つけました。また、明智光秀の五輪塔の丸い「水」部に縦の割れ目と欠けた個所を確認。そして芭蕉の句碑「父母のしきりにこひし雉の声」(元歌は、僧・行基による「山鳥のほろほろと鳴く声きけば父かとぞおもふ母かとぞおもふ」(『玉葉和歌集』))を味わいました。

丹生都比売(にゅうつひめ)神社では、近所のお家の表札に「丹生」姓を確認し、この地に定住した「山の民」の末裔に、空海のパトロンであったであろう丹生一族(丹砂=硫化水銀の採掘一族)を偲ぶことができました。 (杉原 富人)



泉州岡部家の五輪塔

◇したたかな高野山(印象記)

何回も行っているはずの高野山でしたが、何かしら私に新しいインパクトを与えてくれました。それは「したたかな高野山」ということです。凡そ密教を修業するには、①法、②実利、③愛欲の3つが必要(私たち凡人にはうかがい知れない勉強が必要)とされています。その①②③がバランスよくなされて初めて、密教の奥義でもある「社会人を放棄す

ることなく、原生の義務を果たしつつ、それでいてあの窮極の境地に達すること」が約束され、可能であるのでしょう。

今回私は、特に②の実利の面でも高野山がいかにしたたかであったかを、以下の断片的エピソードで知り、今さらながら高野山の頼もしさを感じ入った次第です。

- (1) 金剛峯寺に、延暦寺(京都)・永平寺(福井)には確かなかったはずの天皇一家のご宿泊する部屋があったこと。多くの日本人にある“内なる天皇”を地で行く、天皇(制度)を丸ごと包摂するかの如くでした。
- (2) 丹生都比売(にゅうつひめ)神社を寺領とすることで、寺の財政(政治と経済)を確かなものにしたのではないか？
- (3) 信長の比叡山延暦寺の火打ちの次に狙われていたのが高野山。そこへふってわいた本能寺の変。明智光秀様々でしょうか。それに報いての奥の院の一等地に光秀の墓を提供した(かにみえる)のはさすが。
- (4) 今回のツアーの名コンダクターである杉原さんの解説によると、奥の院=胎蔵マンダラ、高野の街=金剛マンダラ、前者=現象・アートマン、後者=本質・ブラーマン(これで梵我一如になるという仮説)とするなら、さすが空海さん。考え抜いた完璧な「仏国土」造りであったようです。(Z)

地名の秘密 ⑩千日前(せんきちまえ)

墓場からの華麗な転身！

南海電鉄難波駅を中心に形成されている一大商業地区ミナミのなかで、道頓堀と並んで、にぎわいの中心となっているのが千日前である。

千日前という一風変わった地名は、千日前通りの北に鎮座する法善寺と、かつて存在した竹林寺(2009年に天王寺区勝山通りへ移転)で千日回向(せんきちえこう:千日ごとに行われる念仏供養で、この日一日だけお参りすれば千日の功德がある)を行っていたことに由来する。このことから、両寺は「千日寺」と呼ばれるようになり、これらの寺の門前がいつしか「千日前」と名づけられた。

法善寺は1945(昭和20年)年3月の大空襲で全焼し、現在は金比羅堂(こんびらどう)と水掛不動(みずかけふどう)が残るのみである。それでも多くの参拝客が連日訪れ線香の煙が絶えることがない。

繁華街が形成されたのは、明治時代以降で比較的歴史は新しい。以前は墓地が置かれていた。1615(元和元)年5月の大阪城落城後、墓地の一部が千日前に集められ、のち刑場や火葬場も設置された。明治時代になり、刑場の廃止が決定されると、千日前の墓地や火葬場は阿倍野へ移され、千日前一帯は空き地となった。当時、墓地跡ということで、なかなか土地の買い手がなかったが、ある老婆が二束三文の値段で、この空き地を買い取る。そして大阪市中に点在していた芝居小屋や見世物小屋、夜店などを千日前に集めると、空き地は瞬く間に興行場として多くの人で、にぎわいをみせるようになる。1922(大正元)年1月に大火災が発生、せつかく形成された繁華街は焼き野原となる。この焼け跡に市電が敷設されることになる。これが現在の千日前通りの前身である。千日前の由来となった法善寺の北側に延びる細い路地「法善寺横丁」には現在約60軒の飲食街が軒を連ね、往時のにぎわいを彷彿とさせてくれる。

* 参考資料 南海沿線の不思議と謎 天野太郎監修 実業之日本社
文責・文章教室浦田榮二

公開講演会

久米田寺の歴史と文化財

昨年の11月26日、大阪府の指定文化財であった「久米田寺文書(116通)17巻」が、国の重要文化財に指定された(2020年3月19日)のを機会に、八木市民センターで講演会を開催。テレビ岸和田のご協力で第2会場も設け、69名が参加しました。



講師の上田尚道師(久米田寺 明王院住職)は、久米田寺の歴史を【開創と久米田池】【荒廃と再興】、【南北朝から室町時代】および【江戸時代以降の再建】に沿って説明していただきました。

また、各時期の久米田寺に関連のあった主要人物〔(開創の僧)行基、聖武天皇と光明皇后、(久米田寺中興の祖・北条時頼の御内人)安東蓮聖、(中興開山の律宗の僧)顕尊上人、(華嚴宗の僧)明恵上人、(律宗の僧)鑑真和上、(利生塔寄進と仏舎利奉納)足利直義 他〕の「痕跡」を詳しく紹介されました。

この中で、古文書以外の肖像画・仏画に関して、久米田寺に所蔵された経緯にも触れられました。これらの文化財の一部修復は、江戸時代に大阪町人であった奈良屋弥兵衛(山辺雅郷)によりますが、未修復の文化財の修復事業を、困難を乗り越えて遂行中とのことです。

現在、岸和田市内には国指定重要文化財が11点存在しますが、そのうち7点が久米田寺所蔵であることに驚きました。このことは、久米田寺が(鎌倉時代)安東蓮聖による再興以降の「華嚴・律・真言の兼学道場」として、当時、和泉の国にとどまらない寺院であったことを確認できました。

また、来年、京都国立博物館で開催予定の「凝然国師没後700年 特別展 鑑真和上と戒律のあゆみ」(2021年3月27日～5月16日)に久米田寺所蔵の鑑真和上像 他が展示されることも紹介されました。

なお、この講演会の内容は、1月16日(土)から毎週土曜日(15:00～16:30)に12チャンネルで放映される予定です。興味のある方は、ぜひ見てください。

図書館から岸和田ルネサンス

図書館本館(玄関に入って右側)及び各分館にも置いています。見当たらない場合は図書館に問い合せてください。

- 第1号 ウイルス、細菌と「共生」
- 第2号 感染症と「ヒト社会」のあり方
- 第3号 免疫学を学んでみましょう。
- 第4号 今、読んでみたいお薦めの本の私の新型コロナウイルス雑感
- 第5号 「もののけ姫」の世界と里山の再生
- 第6号 100年前に世界を襲った感染症「スペイン風邪」は、岸和田でも猛威をふるった
- 第7号 新型コロナウイルス感染症が重症化するメカニズム
- 第8号 実り豊かな「下山の時代」(その1)
- 第9号 短歌・詩・俳句で語る「新たな日常」
- 第10号 実り豊かな「下山の時代(その2)」
「経済成長」っていったい何でしょう